

日刊 勤労千葉

80.12.25

No. 616

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五六(公衆)四三二七二〇七

方針を確立！ 闘う方

8.3闘争の拠点として

支部大会 倉倉定期 2回

執行部先頭に、土屋一派の組織破壊策動を 粉碎し、さらに組織強化・拡大へ！

佐倉支部第二回定期大会は、一月二三日、一三時すぎ、機関区講習室において、代議員・傍聴者約五〇名の結集をもって開催され、八一・三ジェット延長阻止・国鉄三五万人体制粉碎へ闘う方針を確認し、堀口支部長以下新執行部を選出し、一六時すぎ終了した。佐倉支部は、成田支部と共に八一・三闘争の最大の拠点として、この定期大会の成功をもって、執行部を先頭に闘いに決起することを確認したのである。

結成以来九ヶ月余、土屋一派のありとあらゆる妨害をはねのけ、第二回定期大会をかちとる

大会は、三山代議員(検査分科)を議長に選出して開会され、まず、堀口支部長からつぎのようないさつが行なわれた。

「去る三月三十一日、九六名をもって佐倉支部結成をかちとって以降、各支部の支援と支部組合員の協力により、現在、一九八名中一二〇名の結集をかちとり、一歩一歩着実に前進してきた。思えば私たちは、この九ヶ月の間に、数年、数十年にも等しい大変貴重な体験をした。

動労「本部」派からの切り崩し・デマ宣伝・妨害など様々な攻撃を受けながらも全組合員の団結の力で一つ一つはねかえしてきた。同じ労働組合員でありながら、動労「本部」は、三五万人体制に屈服し、乗務員運用合理化に協力し、国鉄当局と一体となって動労千葉破壊の策動をくりかえしている。

今日、動労千葉に結集して闘っていることの正しさをあらためて確認できる。いまだ動労千葉に結集していない人達にも私達と共に闘うことを説得中です。

佐倉支部は、八一・三ジェット延長阻止の闘いや国鉄三五万人体制粉碎の闘いを成田支部をはじめ動労千葉全組合員と共に闘う。」

つづいて、千葉本部から関川委員長・中江昌夫氏・労働金庫成田支店より、激励と連帯のあいさつを受け議事に入った。

執行部より、三月三十一日の結成大会以降の経過報告、会計報告、会計監査報告、及び一年間の運動方針案、並びに予算案が提案され、一括して質疑応答に入った。

主な質疑応答は、つぎのとおり。

- 〔発言〕 ① 一〇・二一を中心とする一〇月闘争を闘う中で、国鉄当局と一体となった動労「本部」の動労千葉つぶしの乗務員運用合理化一二月強行実施の策動と対決し、粉碎してきた。
- ② この運用合理化粉碎の闘いをうけつぎ、八一

- ・三闘争へ決起しなければならぬ。
- ③ 八一・三闘争は、すでにじまっています。当局は、布施執行委員への不当解雇処分、ジェット延長の提案を策動している。
- ④ 一方、動労「本部」土屋一派は、銚子支部破壊の策動を強めている。
- ⑤ こうした国鉄当局・動労「本部」土屋一派との闘いをおしてすでに八一・三闘争は始まっていることを全体で確認しよう。
- ⑥ 一人一人が闘う決意を込めて、八一・三闘争にたち上ろう。

五つの視点で確信を持ち、八一・三闘争へ

〔執行部答弁〕

- ① 八一・三闘争がすでに始まっているという考え方は同じだ。
- ② 国鉄当局・動労「本部」一体となった攻撃が強まっている中で、動労千葉第四回定期大会で打ち出された「八一・三ジェット延長阻止を闘う五つの視点」に全組合員が確信を持って闘いに決起しよう。
- ③ これから動労「本部」反動分子の様々な妨害や組織破壊策動があるかも知れないが、全組合員ががっちりとして団結して前進していきたい。
- ④ 特に一二〇名の組合員中五九名と約半数を占める青年部の活動をより強化して闘う。
- ⑤ いまだ動労千葉に結集していない人達に対して、「いっしょにやっつけよう」と加入を働きかけている。

新執行部先頭に決起しよう

こうして、佐倉支部は、結成以来、約九ヶ月余、「本部」土屋一派との日常的な攻防戦の一つ一つ着実に勝ち抜き、第二回定期大会の成功をかちとったのである。

- 佐倉支部新三役は次のとおり
- 支部長 堀口 太一(機関士)
- 副支部長 和田 義明(検査係)
- 書記長 今 関 喜代司(機関士)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよノ